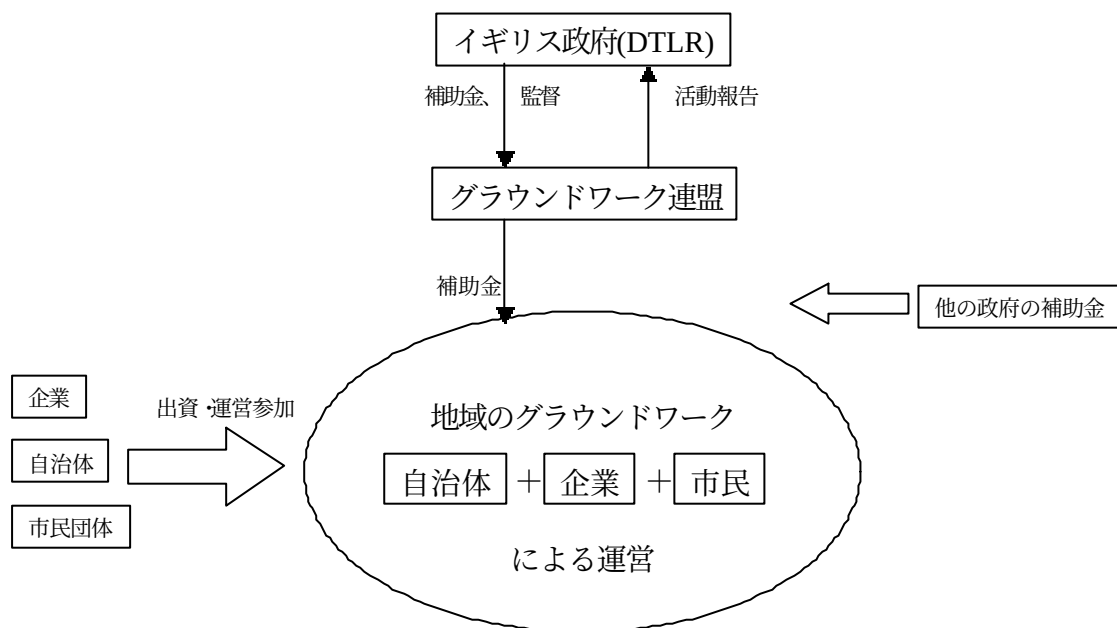


環境保全活動の連携の枠組みの事例(英国のグラウンドワーク)

○英国のグラウンドワークとは

- ・自治体、地域コミュニティー、企業とのパートナーシップに基づいて、地域環境及び地域住民の生活の改善、地域経済の活性化を推進。
- ・1981年、イギリス環境省（現在の「イギリス住宅・計画・再生省（DTLR）」）により民間団体として設立。
- ・イギリス政府（DTLR）との協議により毎年策定される事業計画に基づいて活動が実施される。
- ・DTLRから補助金が交付されるが、政府が具体的なプロジェクトの実施を指示することは基本的にない。
- ・補助金は、事業収益の増加に伴い、年々減額される。

イギリスグラウンドワークの仕組み



○英国のグラウンドワーク・トラストと各主体との関係

- ・イギリス全土45ヶ所にグラウンドワーク・トラストが設立され、このトラストを中心に具体的なプロジェクトを展開。
- ・自治体、地域コミュニティー、企業等の地域の代表からなる「理事会」と、プロジェクトを実施するスタッフ（有給スタッフを含む）で構成。
- ・理事会の構成員は、グラウンドワーク・トラストに対し資金を拠出し、理事会のメンバーとして運営に参加する（地元の議員が自治体を代表する場合もある）。

○ 英国のグラウンドワーク・トラストの具体的なプロジェクト

【ボタ山の公園化】

- ・南ウェールズの Caerphilly トラストが、宝くじ基金や政府、EU、地元自治体などから資金を得て、住民や企業、学校と一緒に、石炭採掘が終了しボタ山となった地域の再生プロセスを実施。
- ・周辺にある 16 の学校がボタ山の歴史や地形、植生の調査などを行い、7 万本の植樹にも参加。
- ・周辺の 6 つの集落では住民参加で集落環境プランが作成され、工業団地でも企業参加で環境改善が行われた。

【グリーンリンク (Greenlink)】

- ・グラウンドワーク本部と様々な業種の企業が共同で企画している「全国プログラム」の一つ。
- ・企業と学校が一種の姉妹関係を結び、生徒が企業を定期的に訪問することにより、企業活動を題材として環境について学ぶプログラム。
- ・過去 10 年で約 1000 の企業と学校とのリンクができている。

【障害者活動センターの造成】

- ・南ウェールズの「Bridgend トラスト」で、市の社会福祉課と英国ソニーが連携をとり、ソニー工場敷地内に障害者の活動センターを造成。
- ・障害者が学んだ木工や家具作成の技術を生かした建設を行う。
- ・将来的には健常児も利用できる環境教育センターになる。
- ・障害者が栽培した園芸品の購入・利用できる制度や、障害者が工場敷地の一般管理を担当する計画も進行中。

【湿地帯の探索】

- ・Groundwork Kent Thames-Side と RSPB (Royal Society for Protection of Birds) のパートナーシップにより、10～11 歳の児童による湿地帯の探索を企画。
- ・SRB5 (the 5th Single Regeneration Budget)、Project Denton、Green Grid からの出資。
- ・ごみの不法投棄や野生生物に対する配慮の低さなど、現在直面している問題を知り、その後しっかり保護されているものを見、それと比べることで、湿地帯の保全の重要性について学ぶ。